

下町文化

第 192 号

平成10年3月15日

発行

江東区教育委員会
生涯学習部生涯学習課



桶職人の仕事場模型

第2回工匠式番館企画展

桶（おけ）

—ぬくもりを伝える器の文化—

工匠式番館（森下文化センター2階）では、3月21日（土）から4月5日（日）まで第2回企画展として「桶（おけ）—ぬくもりを伝える器の文化—」を開催します。化学素材の工業製品が全盛の今日にあっては、木製の桶はなつかしさ、精巧さを感じさせる品物の一つです。展示では、その伝統的技術が江東区の文化財として登録されている職人さんのワザや製品を中心に、桶と人々の生活文化にふれていきたいと思います。入場は無料です。

桶の特色の一つは、側板、底板などに分けられた木の板を組み合わせて作られるという点です。木は水分を含むと膨張するので、合わせ目がしっかりと閉じて水が漏れないようになります。木の性質を活かした容器といえるでしょう。

近年では、風呂用に木の桶を愛好する人も多く聞きます。しかし桶の用途は、風呂場だけあったわけではありません。ほんの30～40年前には、生活の様々なシーンで桶が見

られました。例えば台所用具の中にも桶の仲間は見られます。米を炊いた後、釜からお櫃に移しましたが、お櫃は桶屋が作るいわば桶の一種です。その他漬物を漬ける漬物桶、味噌を入れる味噌桶、水を溜めておく水桶、洗面用具の手水桶、など挙げればきりが無いほどです。昔は井戸の枠組が大きな桶のような形をしていましたが、これも桶職人が作るものでした。

人間だけではなく、家畜を飼うに

記録映画完成
3面



も桶は欠かせませんでした。馬にカイバを与えるには、カイバ桶が使われていました。なお会場には、区民の方から寄贈された桶を数種類展示してあります。いずれもかつて実際に使われていたものばかりです。

近世には、江戸には多くの桶職人が住んでいて、桶大工頭のもとに統制され、今日の税金に相当する労働奉仕が義務付けられ、後にはそれに代わって金銭が納められました。

挿絵などに描かれた江戸時代の桶は現在のものとはほとんど違いがありません。若干の違いは、桶にはめられるタガが、最近のものは金属（銅など）製のものが主流なのに対して、竹や木の皮や蔓などを使ったタガが一般的だったようです。

桶の製作工程を見てみましょう。区内在住の桶職人川又栄一さんの場合です。川又さんは江東区の文化財としてその技術が登録されている職人さんで、現在江東区では、桶職人は川又さんとそのご子息だけになっ

てしまいました。
(1) 材料の原木をノコギリで輪切りにし、それをさらに4等分します。



(2) 表面を削り、桶の材料の形に整えます。
(3) 材料を乾燥させ、ノコギリで合わせ目をそろえます。

(4) 形の合う材料を選び、桶を組んでいきます。

(5) 内側・外側を仕上げ、タガをはめ、最後の仕上げを行います。

以上、見学の予備知識として桶と桶を使う日常の生活、桶を作る職人について概観してみました。展示会場では「桶」をとりまく歴史や文化、人々の生活との関わりのすべてはとてでも描写しきれませんが、実際に使われた桶や、現代の桶職人の作品等を通して来場



された方々に「桶のある生活と文化」を想像していただければと思います。

江東外見発見伝 ― 区外資料の紹介 ―

北口本宮富士浅間神社の奉納額

かつて富士信仰の吉田口（北口）登山道として賑わったのが、現在の山梨県富士吉田市でした。ここに北口本宮富士浅間神社があります。

江戸時代、民衆宗教の一派である富士講が江戸を中心に広まりました。本所亀戸の丸不二講や深川の山玉講など九つの富士講が江東区で成立しています。しかし区内の具体的な活動や明治時代以降の富士信仰については、まだまだわからないことが多いのです。

区内の歴史を語る資料は、震災や戦災、そして開発によってその多くを失ってしまったのが現状です。そこで今回は、旅先で見つけた江東区の「歴史の記憶」を紹介することにしましょう。

写真の奉納額は北口本宮富士浅間神社の本殿正面に掲げられています。これは、明治42年（1909）8月に深川元講が浅間神社の「家根替」のため「金壹百圓」を寄付したときのもので、中央部には大先達として松下卯之助ら三人、講元として清水



周作の名が記されています。また、向かって左下には、講元を補佐する世話人として深川越中島の村井栄助ら10人の名前が見られ、これらの人々が講の中心として活動していたのでしょうか。この他にも、「深川公園きんつばや」「材木商 深川東屋房次郎」といった人たちが奉納したことがわかります。写真の奉納額の横には山吉丸清講社の奉納額があり、ここにも江東区関係の名前が見られます。このような事実は、江東地域が富士信仰を支えた有力な基盤であったことを物語っています。

皆さんも富士吉田市の浅間神社に立ち寄った際に、この奉納額をご覧になってみてください。また、旅先で「歴史の記憶」を見つけたら、ぜひ文化財係までご一報ください。

よみがえる古仏の輝きと 伝統の「技」を記録する

教育委員会では、今年度2本の記録映画を製作しました。因速寺・木造阿弥陀如来立像の解体修理の記録と、染織（更紗）の更漬です。区指定文化財である鎌倉時代の仏像の修復の様子と工匠の伝統の「技」が映像化されています。次に今回撮影した映画の内容を簡単に紹介しましょう。ここで紹介する映画フィルムは文化センター、ビデオは文化財係でそれぞれ貸し出しをおこないます。

仏像解体修理の記録

因速寺 木造阿弥陀如来立像



区指定文化財である因速寺（東砂1）の木造阿弥陀如来立像は、鎌倉時代の作とみられます。本像には矧ぎ目の剥離や欠損部があったため、平成8年度、仏師・明珍昭二氏により解体修理が行われました。

まず、袖、胴体、頭部の順に解体されました。この時、体内から中世と近世の修理時に納められた仏舎利や教典などが発見されました。表面の汚れや後補の泥地漆箔を取り除く

と、顔や肉身部のあざやかな金泥が現れ、像の背面には製作当所（鎌倉時代）の漆箔が「断紋」となっており、断紋とは、金箔の漆下地が歳月によって味わい深いひび割れとなったものです。修復は製作当初の断紋を生かして行われることになりました。欠損部は同じ素材（檜材）を足して形を整え、矧ぎ目の間隙や小さな欠損部は木の粉を漆で溶いたコクソウルシで補修し、表面は砥の粉を水で練って漆をまぜたサビウルシで補修します。続いて、解体した各部を漆に小麦粉を練りこんだムギウルシで接合します。この時、体内納入品の複製と平成の修理願文を内部に納めました。最後に漆箔をほどこし、古びて落ち着いた感じにするため古色仕上げをしました。

染織（更紗染）

更漬（大島6）

更紗は、インド、ジャワなどの東洋諸国を起源とした模様染布です。日本には室町時代末ごろ伝わり、江戸時代後期には日本人の嗜好をとり入れた「和更紗」が発達しました。更漬さんは区内で唯一、更紗染をおこなっている型染屋です。三代目更漬の佐野利夫氏（昭和12年生）、弟の勇二氏（昭和13年生）、初代更漬・佐野浜次郎氏の弟子であった鈴木保氏（大正10年生）の三人が更紗染の伝統技術の保持者です。

工程は、張り板の両面に布地を張り、十数枚から二十数枚の型紙で染めていきます。型紙には「ホシ」と呼ばれる小さな穴があり、このホシに合わせて型紙をずらしながら染めます。染めが乾いたら蒸気で一時間ほど蒸し、続いて冷水で水洗いして染料のノリを洗い落とします。最後に干し場に干して、桃の皮からとった染料で全体に地染めをし、色調に深みを加えて完成です。



す。

江東ゆかりの人物(7)

桑田立斎



江戸末期の蘭方医であり、牛痘、種痘の実施と普及に専念し、生涯に10万人種痘の悲願をたて、7万余人にこれをほどこした。

天保13（一八四二）年、彼32才の時、深川海辺大工町万年橋のほとりに小児科医院を開業する。

文化8（一八一）年、越後新発田藩士の子として生れ、幼にして神童とうたわれる。江戸に遊学、若くして深川冬木の蘭方医坪井信道の日習堂に入門し、その助手をつとめる。老中阿部伊勢守に呼び出され当時天然痘流行のエゾに渡り、アイヌの人々に種痘をと、要請される。彼は室蘭、十勝、根室、そして国後島へと種痘の足をのびた。

種痘10万人の達成のために小名木川を舟で市川・松戸あたりまで、1か月余の旅から帰り、自宅で診療中、突然種痘針を持ったまま倒れ、帰らぬ人となった。明治2年58才。没後「幕末のジェンナー」と人はいふ。

（辻 康信）

おしらせ

記録映画上映会



教育委員会
では、左記の
とおり、記録
映画上映会を
行います。今
年度新たに製
作した2本の
記録映画と、

5月中旬に遺作展の開催を予定して
いる故石井靖子氏（刺繍）の記録映
画を合わせて上映します。

工匠たちのすばらしい伝統の技と
貴重な仏像の解体修理の記録をこの
機会にぜひご覧ください。

日時 4月10日(金)

午後6時30分から8時

場所 総合市民センター

7階 第5会議室（入場無料）

上映作品

刺繍 石井靖子

染織（更紗染） 更 演

仏像解体修理の記録

因速寺 木造阿弥陀如来立像

問合せ 生涯学習課文化財係

☎(3647)9111(内)3361

江東史談会例会

日時 3月25日(水) 午後6時

会場 深川老人福祉センター

参加 自由、会費1000円

連絡先 細田隆善(3641)5780

芭蕉記念館から

俳句会

日時 3月24日(火) 午後1時30分

(集合1時15分)

会場 2階研修室

内容 兼題 春季雑詠3句

席題なし

対象 区内在住・在勤の方50人

(先着順)

費用 無料。句報の送付をご希望の

方は、80円切手貼付宛先明記

の封筒をお持ち下さい。

締切 3月22日(日)

申込 窓口または電話で

ジュニア俳句教室

日時 4月11日(土) 午前9時30分

(集合9時20分)

会場 2階研修室

内容 俳句をつくってみよう

対象 区内在住の小学生30人

(先着順)

費用 無料(筆記用具持参)

締切 開催日の前日

「下町文化」をお手もとに

郵送希望の方は住所・氏名・電

話番号・下町文化郵送希望と明記

のうえ80円切手12枚(4月・3月

号分)を同封して左記へ。

〒135-8383江東区東陽4-11-28

生涯学習課文化財係

締切 4月10日必着

申込 窓口または電話で

◇芭蕉記念館

江東区常盤1-6-3

☎(3631)1448

伝統の技 実演公開

毎月第一・第三日曜日に工匠菅番

館(森下文化センター内)で行って

います職人さんの今後の実演日程は

次のとおりです。

4月5日 刺繍(紋章) 天野一政

4月19日 更紗染 更 演

*時間はいずれも午後1時~3時

4月19日 更紗染 更 演

※時間はいずれも午後1時~3時

4月19日 更紗染 更 演

※時間はいずれも午後1時~3時

4月19日 更紗染 更 演

※時間はいずれも午後1時~3時

4月19日 更紗染 更 演

※時間はいずれも午後1時~3時

旧大石家住宅から

友の会会員募集中

教育委員会

では、旧大石

家住宅の保存

活動を行う

「友の会」の

募集をしてい

ます。活動時

間は午前9時

30分から午後4時30分ですが、都合

によって2~3時間の活動になっ

てもかまいません。

参加希望の方は、次の要領で申し

込んでください。

応募方法 所定の申込用紙に、必要

事項を記入の上、生涯学習課文化財

係まで持参または郵送。

申込用紙の配布場所 旧大石家住宅

(南砂5-24仙台堀川公園内) およ

び区役所文化財係

締切 平成10年3月25日(水)まで

応募資格 区内在住の方に限る。平

日(月・金曜日)のいずれか1日の

活動に参加可能な方。

※応募された方は、4月8日(水)に研

修会を行います。

問合せ 生涯学習課文化財係

